２０００年度

ムーブメント教育・療法夏期セミナー

発達と療育を援助する実践講座

＜横浜会場＞

期日：2000年7月29日（土）～30日（日）

会場：横浜ラポール　　ラポール　１Ｆ
ラポールシアター／サブアリーナ

主催：日本ムーブメント教育・療法協会
共催：横浜市心身障害児者を守る会連盟

横浜会場

発達と療育を援助する実践講座

７月２９日（土）	横浜ラポールシアター／サブアリーナ
10:00	＜受付＞
10:30 11:30 12:00	＜実技＞ 動きをとおして子どもたちに喜びを 守る会連盟の子どもたちと共に　　當島　茂登ほか 実技指導のポイント 當島　茂登
	＜昼　食＞
13:00 14:30	＜実技＞ 中軽度障害児のためのムーブメント遊具の使い方　是枝喜代治
15:00 16:30	＜実技を振り返って＞ ①なぜ障害児者にムーブメント教育か ②いかにムーブメント教育を使うか　　小林　芳文

７月３０日（日）	横浜ラポールシアター
9:45	＜受　付＞
10:00 11:00	＜実技指導＞ 算数・国語ムーブメント　　長谷川英子
11:00 12:00	教科学習にムーブメント教育を生かす 仁科　由美
	＜昼　食＞
13:00 14:30	＜講演＞ ＬＤ児の教育を支援する　　小林　芳文
14:45 16:15	＜実技＞ バイオリンを取り入れた音楽ムーブメント　　猪子秀太郎ほか

7/29　10:30～12:00

＜実技＞

動きをとおして子どもたちに喜びを

守る会の子どもたちと一緒に

国立特殊教育総合研究所
主任研究官　當島茂登

主題「遊具を使って楽しく遊ぼう」

１．ねらい

・楽しい雰囲気の中で遊具を使って基本的な動きやダイナミックな動きを経験する。
・音楽を取り入れた楽しい雰囲気の中で、身体の動きの拡大を図る。
・集団での楽しい活動を通して人や物との関わりを多くすることにより心理的諸機能の形成を図る。

２．活動内容

活　　動	内容・方法	達成課題	配慮点
フリームーブメント（１５分程度）	場の雰囲気に慣れる 意図的に遊具を配置する 前庭感覚系遊具 （スクーターボード・大・小、ユランコ） 操作性遊具 （ビーンズバック、ボール、フリスビー、風船、リボン、フープ、カラーロープ） その他の遊具	自発性 創造性 社会性 操作性	安全面を配慮しながら子どもの動きを観察する

活　　動	内容・方法	達成課題	配慮点
課題ムーブメント ・集合・あいさつ 　呼名 ・ロープムーブメント（２０分程度）	ロープで円陣になる。 ロープをもって軽く振る。 ロープをもって、上下、引っ張る、回す活動をする。 ロープを持って歩いたり、走ったりする。 ロープの中に身体の部位を入れる。 ウェーブをする。（円陣の中を子どもが移動してきたらロープを上に上げる）	聴覚運動の連合	発達状況や課題理解を把握しながら適宜援助する 全員が参加できるように工夫する。
・スクーターボードムーブメント （１０分程度）	スクーターボードに乗って目印のところへ移動する。 （自力で、棒につかまって移動する） ロープのコースを移動する。	筋力 視覚運動の適合	競争ではなく協調することを大切にする。
・パラシュートムーブメント （１５分程度）	大きい波､小さい波を作る。 ドームを作る。 パラシュートに乗って上下の動きを楽しむ。	身体意議	満足感が得られるようにする。

お願い：当日の子どもたちの人数や状態等により多少プログラムを変更する場合もあります。

実技指導のポイント

１．ムーブメントの環境づくり

２．活動の中でのアセスメント

３．活動プログラムの構造化に向けて

（１）感覚運動ムーブメント：基本的な「動き」を学習する
①姿勢

②移動

③技巧

（２）身体意識ムーブメント：知的発達の基礎として活動
①身体像

②身体図式

③身体概念

（３）知覚運動ムーブメント：動くことを通して学習する
①知的活動を意図したプログラム
（色、形、大小、位置、方向、長短、高低・・・など）
②聴覚運動の連合

③視覚運動の連合

（４）心理的諸機能を高める

①ことば・コミュニケーション

②情緒

③社会性

④問題解決能力

7/29　13:00～14:30

＜実技＞

中軽度障害児のためのムーブメント遊具の使い方

国立特殊教育総合研究所
主任研究官　是枝　喜代治

ここでは、参加者の皆さんに出来るだけ参加していただいて、中軽度障害児のためのムーブメント遊具の使い方について考えていきたいと思います。

◇フリームーブメント場面での観察の観点

・遊具の使い方を、どれくらい知っているか？

・どのような遊具に反応するか？　（例えば、トランポリンなどの感覚刺激のある遊具、物の操作を中心としたボールやロープなどの遊具）

・移動の力、姿勢の力、動きに関することばを、どれくらい理解しているか？

◇ひとつの遊具でも、多様な動きを引き出すことができる

（ロープを使用して）

・柔軟性を育てる（ストレッチ）

・敏捷性を育てる（波とび、ロープのへびを捕まえる）

・身体意識能力の促進（伸縮ロープを使って）

・形や色・数などの簡単な概念の形成

・社会性や創造性の促進（集団による活動で）

◇遊具の組み合わせや、動きたくなるような環境をつくる

・マットとフープを組み合わせたフープの家

・フープとビーンズバック（お手玉）を組み合わせた的入れ

・ロープとビーンズバック（お手玉）による仲間あつめ

・平均台やマット、ラダー（梯子）などを組み合わせたアスレチック

・サーキットの障害物に身近な遊具を組み入れる
（ランニングの途中で、ロープの波を跳び越えたり、フープのケンパ跳びを入れたり等の工夫を）

◇発達段階や障害別に応じて遊具を工夫する

・知的障害児
　概念の形成（色、形、数など）　～形板、ロープ、フープなどの活用
　時間・空間・因果関係意識の育成　～ボール、風船等の利用
　創造性の促進　～パラシュート、スカーフ、ロープ、新聞紙などの活用

・自閉症児
　中枢神経系統合障害の克服　～トランポリンなどの感覚運動遊具の利用
　コミュニケーション手段の拡大　～集団でのプログラムの活用
　集中力の育成　～動的な動きと、静的な動きの調和

・言語障害児
　言語の概念づくり　～知覚－運動プログラムの活用
　受容・表出言語の育成　～「動き」と「ことば」の一致、動作語の活用
　連合能力の育成　～視知覚、聴知覚能力の育成

◇具体的な活用法

　ロープ（短縄、長縄、伸縮ロープ）フープ（大、中)、リボン、パラシュート（大・中・小）などの身近で簡易な遊具を利用したプログラムを、参加者の皆さんと一緒に取り組みたいと思います。

7/29　15:00～16:30

＜実技を振り返って＞

なぜ障害児（者）にムーブメント教育か
いかにムーブメント教育を使うか

横浜国立大学教授・JAMET顧問
小林　芳文

発達教育や療育を必要としている子どもにとって、ムーブメント教育は、楽しみながら環境への適応を実際的な活動で行っていくという意味で、これまでの訓練型や指導者、療育者中心の方法とは大きく異なっている。

近年、ムーブメント法の考えが障害児（者）の教育や療育に浸透して、遊びに発達的・治療的解釈が出来るようになった。つまりムーブメント教育の考えを使うことで、遊びの範囲では考えられなかった環境設定や療育の方法が生まれた。また、ムーブメント教育で何ができるかが解ったことで、学習や支援の枠組みに幅が広げられるようになった。

１．実技の中での子どもの様子について

・表情について

・環境との対話について

・多様な活動について

２．実技の中での遊具などの環境について

・感覚運動に関わる遊具

・知覚運動に関わる遊具

・精神運動に関わる遊具

・社会運動に関わる遊具

３．いかにムーブメント教育を使うか
　この教育の中心的なゴールは「健康と幸福を支える」ことにある
　いかにのために「なぜムーブメント教育が必要か」を考える

４．障害の重度重複化傾向の中の教育として

・重度重複教育の感覚運動を中心とした教育の構造化が求められている

・伝統的な訓練に対して、見直しがされている

・ＭＥＰＡ－Ⅱでの感覚運動教育について

５．ＱＯＬに向けての教育の流れとして

・生活の質に目が向けられてきた

・余暇活動が重視されている

６．動きのぎこちない子どもの治療的運動として

・音楽、遊具、変化のある堤所など多様な運動環境について

・ＢＣＴ（身体協応性検査）とMQ（運動指数）について

７．発達障害児の教科学習の手段として

・算数・国語ムーブメント

８．早期教育、家庭療育の関わりとして

・ＩＦＳＰ（個別家族サービス計画）について

7/30　10:00～11:00

＜実技指導＞

算数・国語ムーブメント

横浜国立大学教育人間科学部附属養護学校
小学部　長谷川英子

本校の小学部では、個別の国語・算数と平行して集団の算数・国語ムーブメントを行なっています．今回は、小学部の子どもたちが大好きなパイプと帆布（ハンプ）を使って、会場の皆さんと一緒にムーブメントの実技を行ないます。能力幅のある集団での実践を想定し、課題別に３グループを設定し、２種類のムーブメント教材の特性を生かしながら展開できればと考えています。

パイプムーブメント

（課題のねらい）	（学習活動）
■色と形・形と大きさの対応	▼ロープをつなげて作った形の周りを歩き・指示された形の中に入る　「大きい三角」など
■フリームーブメント	▼色々な物に見立て操作したり、自由にパイプで遊ぶ
■色・長さ・太さの分類	▼色で分類　▼長さで分類　▼太さで分類
■色と太さの対応	▼床に立てたパイプの色と太さに応じたボールをのせる
■衝突回避 協調性	▼手をつないで並べたパイプの周りを移動したり、パイプの間を数人で手をつないで移動する
■太さの意識 社会性	▼太いパイプに細いパイプを入れる ▼協力して片付ける

帆布（ハンプ）ムーブメント

（課題のねらい）	（学習活動）
■色弁別 身体部位の意識	▼色の指示を開き、帆布の上に立ったり座ったりする
■フリームーブメント	▼色々な物に見立て帆布を操作したり、自由に遊ぶ
■色の分類	▼色ごとに分類
■規則性の理解	▼色・形・方向性による規則性を考えて帆布を並べる
■表現	▼帆布ダンス
■色と形と大きさの分類	▼見本と同じ形を作って片付ける 「黄色の三角」「青い小さい三角」「赤い長四角」等

7/30　11:00～12:00

教科学習にムーブメント教育を生かす

横浜国立大学教育人間科学部附属養護学校
小学部　仁科　由美

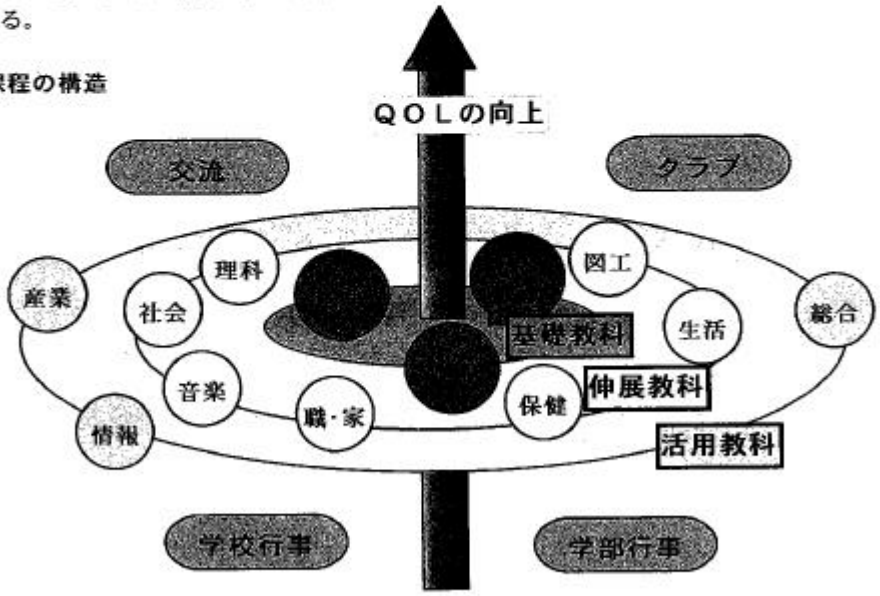
1 学校の概要と特徴ある教育課程について

本校は、小学部・中学部・高等部からなり、児童生徒数は79名、知的障害のある子ども達の学校である。開校以来20年間、一貫として「賢く豊かに生きる」ための教育をすすめてきた。子ども達の認知発達を促す事を基本にすえ、**ムーブメント教育**を取り入れ、教育活動に取り組んでいる。平成５年度にこれまでの教育活動を基本に教育課程の見直しをおこない、知的障害のある子ども達の認知発達を系統的、計画的に促していく一つの方法として**教科中心の教育課程を導入**した。

平成７年度より、**個別教育計画**に取り組みはじめた。個別教育計画が学校サイドの指導計画に終わらぬように、保護者や各関係機関からの情報も取り入れ、子ども達のQOL（生活の質）の充実をはかるという観点からも**個別教育計画**を見直し、教育に生かしている。さらに、子ども達がQOLの充実へむけて子ども達自身がつけていく力を**生きる力**として捉え研究をすすめてきた。子ども達が力強くそれぞれのQOLの充実に向けて進んでいってほしいと願っている。

個別教育計画を作成する際、児童生徒の実態を捉えるために様々なアセスメントを実施しているが、その一つとして、**MEPA・MSTB・BCT**　を取り入れている。毎年４月に全校的取り組みで実施している。そこから読み取れた実態を基に課題を分析して、児童生徒一人ひとりの目標をたてている。

2 教育課程の構造



各教科がバラバラに存在するのではなく、教育課程を構造化し、有機的なつながりを持たせて指導することで、より計画的、系統的な教育がなされ、QOLの充実を目指す方向へ進んでいくと考えている。

3 本校のIEPについて

①IEPの基本的考え方

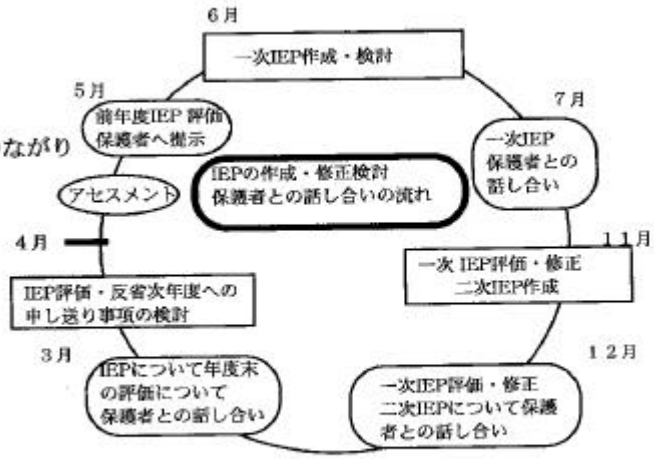
- ■児童生徒の理解
- ■保護者との密接な協力
- ■組織的検討
- ■教育課程の検討と教科間の有機的つながり
- ■各学部の実情にあったIEP

②IEPの概要

④本校の考えるQOL

情操	社会生活への適応	職業能力
認知	本校児童生徒のQOL	自己実現
身辺処理 生活技能	健康	余暇活動

③IEP作成の流れ



小学部高学年の日課

	月	火	水	木	金	土
1	学級活動	学級活動	学級活動	学級活動	学級活動	学級活動
2			総合			
3			総合			総合
4	音　楽		総合	図　工	生　活	学級活動
	給　食	給　食	給食	給　食	給　食	
5	算数	クラブ	学級活動	国　語	学級活動	
6	学級活動	学級活動		学級活動		

■ はムーブメントを取り入れている時間

4 小学部の取り組み
ー指導方針ー

- ■知覚運動及び精神運動を促進する
- ■基本的生活習慣の定着を図り、社会性自主性を育成する
- ■学習態勢を形成し、事物事象に対する知覚、認知機能を促進する
- ■各教科で培った知識や技能を生活に活用する力を育成する
- ■より豊かなコミュニケーション手段の拡大を図る

5 走行ムーブメント　（ビデオ紹介）
（全体体育）

6 国語・算数ムーブメント　（ビデオ紹介）

7/30　13:00～14:30

＜講演＞

ＬＤ児の教育を支援する
ムーブメント教育の実践に向けて

横浜国立大学教授･JAMET顧問
小林　芳文

学校教育の中で一番困った問題－全国ＬＤ親の会アンケートより
①友人関係　（小学校３３％、中学校３４％）
②学習面の遅れ（小学校３３％、中学校１４％）
③適切な援助が得られない（小学校２８％、中学枚２４％）

１．ＬＤとは

１）１９９９年７月文部省協力者会議の定義・・・基本事項
①「基本的には、全般的な知的発達に遅れはない」こと
②「話す、聞く、読む、書く、計算する、推論する能力の習得と使用に著しい困難を示す」こと
③「原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定される」こと
④「視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない」こと

２）１９９４年全米学習障害合同委員会（ＮＪＣＬＤ）の定義
アメリカの定義では、日本の文部省の定義の①②③④の他に「行動の自己調整、社会的認知、社会的相互交渉における問題が、学習障害に伴う形で起こり得る」ことが、あげられている。

教科学習の問題と共に、不器用さがＬＤに関連した特性であることは無視できない。文部省の定義では、身体運動面の姿が見えない。ＬＤ本来の特徴が消えたことで教育の方向を見失うことがあってはならない。

２．ＬＤの教育を探ると以下の支援があげられよう

１）主な教育的支援
①教科学習に対しての教育
②中枢神経系の障害（運動動作など）に対しての教育
③行動の自己調整（多動など）に対しての教育
④社会性、社会的適応に対しての教育

２）ＬＤ自身の学び方を支える
いかに個性を専重して、社会的自立を支えるか－教育の場とシステム

３．実態調査に見られるＬＤなどの特性
１）横浜市学習上特別な配慮を要する検討委員会（平成５年）の調査結果より
・対象：小学生７５，０９２人

・指導に特別な配慮が必要と思われる児童出現率＝１．７％、
男女比３．９（男）：１

２）ＬＤに関わる抽出５大因子
Ｆ１；教科学習
Ｆ２；不器用さ
Ｆ３；多動性
Ｆ４；生活習慣未確立
Ｆ５；社会性未熟

３）上位３因子（Ｆ１，Ｆ２，Ｆ３）を尺度とした類型化
・文部省ＬＤの最終定義に明記された教科的なつまずきを持たないＬＤが、
全体の３２％いることが明らかになった。

・行動や社会性に支援を必要としている児童（全体の３分の１）が、最終
定義には含まれていない。これをどう考えたらよいか。

４．ムーブメント教育によるＬＤ支援
１）M．フロスティックの教育観
「こころ、からだ、あたま」発達全体を支える、成功感、成就感など達成

２）Ｅ．キパードの精神運動教育
不器用な子どもの支援、ムーブメント教育教師の役割

３）ＬＤと身体・運動パフォーマンスの関係
粗大な運動、比較的容易な運動、ぎこちなさを加速しない運動

５．ＬＤの学習及び認知を促すムーブメント教育でのプロセス

１）身体意識

２）知覚運動

３）時間・空間関係意識

４）表象・社会的関係

５）問題解決

7/30　14:45～16:15

＜実技＞

バイオリンを取り入れた音楽ムーブメント

鳴門教育大学学校教育学部附属養護学校　教諭　猪子　秀太郎
徳島県立国府養護学校　教諭　高曽根　有紀

はじめに

　音楽は、動きに勇気を与えます。その勇気とは、音楽の持つ様々なリズム、旋律、和声によってわれわれの心が動かされることから起こります。また、ムーブメント教育の中では､みなさんが作り出す動きに誘発されることによって、音楽が様々に変化するということも起こります。すなわち、音と動きはお互いに影響し合って、創造を繰り返しているといえます。
　今日は、バイオリンやピアノの作り出す音が、みなさんの動きをどんな風に勇気づけるか、そして、みなさんの作り出す動きによってどんな音楽が生まれるか、楽しみながら学びたいと思います。

１．バイオリン演奏　「夏の思いで」

２．準備運動
　・バイオリンの音に合わせて動きを創る

　・動きに合わせて音を創る

３．いろいろな遊具を使って
　　・ロープ

　　・フープ

　　・スカーフ

　　・コクーン

　　・パラシュート

４．徳島みやげ　－阿波踊り－
・今年は、道具を使ってやってみましょう。

５．実践例の紹介　－鳴門教育大学附属養護学校小学部での実践－

６．一緒に歌いましょう

あの青い空のように

１．よろこび　ひろげよう
ちいさなぼくたちだけど
あの青い空のように
すみきった心になるように

２．あかるさいつまでも
ちいさなぼくたちだけど
あの青い空のように
すみきった心になるように

３．手と手をつなごう
ちいさなぼくたちだけど
あの青い空のように
すみきった心になるように

すみきった心になるように

日本ムーブメント教育・療法協会
〒144-0056
東京都大田区西六郷　4－20－6
社会福祉法人行道福祉会内
TEL　03-3738-1094
FAX　03-3738-1172

Japan Association of Movement Education & Therapy
（略称：ＪＡＭＥＴ）

公認ホームページ　http://www.asahi-net.or.jp/~NE8M-TKHS